

* 参考図書

- ・『「ヨコミネ式」天才づくりの教科書』横峯吉文(講談社)
- ・『ヨコミネ式子供が天才になる4つのスイッチ』横峯吉文(日本文芸社)
- ・『図書館の学校』(公益財団法人図書館振興財団機関紙)
- ・『親子で書こう!100 さつ読書日記』北川 達夫監修(経済界)
- ・2020年度教科書(小学校国語科用)『国語1～6』(光村図書)

読書日記の使い方

※こちらは小学校の先生向けに発行しているものになりますが、子どもたちがどのようにして使っているかの参考になればと思います。

平成24年にかほく市立中央図書館が開館するにあたり、かほく市立中央図書館では読書日記を発行しました。その後、平成25年に小学生版、平成29年に中学生版を発行し、市内の小中学校で活用いただいております。

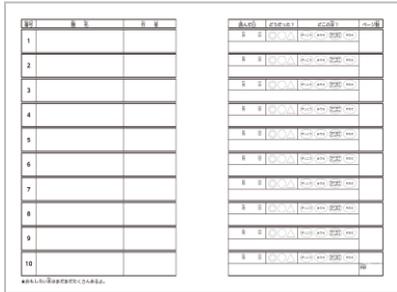
読書家の多くの人も読書日記をつけることを薦めていますが、その理由として、読書の記録はその人の趣味や興味、読書から得た知識や知恵、何を感じ、考え、どう成長していったのかという記録になっていくからだそうです。

人格の形成には読書が大きくかかわると言われています。もちろん、読書だけで人格ができるわけではなく、いろいろな体験や人との出会いが人格をつくっていくわけですが、読書での疑似体験や本との出会いが、実社会での体験や出会いの土台やきっかけになることは数多くあると考えられます。

児童たちが、小学生のあいだに何を読み、どう成長していったのか記録していく読書日記は、卒業アルバム同様にとっても中身の濃いものになっていると思います。また、先生方にとっては、子どもの興味・関心・特性や個性を知るためのツールにもなると思いますので、ぜひ有効にご活用くださいますよう、お願いいたします。

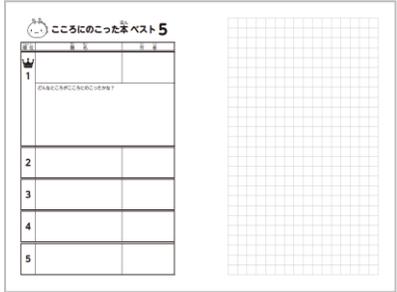
読んだ本を記入するページ

読書カードのかわりになるよう、市内小学校で使われている項目を盛り込みましたが、全ての項目を記入する必要はありません。1年生は題名と読んだ日だけ、2年生からは作者も記入、3年生からはページも、など、学校やクラスの事情や児童の能力に応じて記入する項目を検討してください。フリースペースは感想や引用・出版社などを記入するとよいのではないのでしょうか。



ここにのこった本ベスト5

特にここにのこった本を記入します。1冊にしぼるのは逆に難しい気がするので、ベスト5まで書けるようにしました。大人でも、意外と読んだ本のことは忘れていくものです。100冊のうち1冊でも、ここにのこる本に出会えるといいですね。



先生と家族からのメッセージ

身近な人に認めてもらえる、子どもはとて喜ぶものだと思います。忙しい先生たちの負担にならない程度の簡単な一言で結構ですので、記入してあげてください。家族の人にも書いてもらおうと、子どもがどんな本を読んだのかわかり、100冊も読んだことにびっくりされ、喜ばれると思います。



表紙

開始日・終了日・何冊目か・学年・組・名前が記入できるようになっています。2冊目からは、製本テープで貼りあわせるか、穴を開けて紐で閉じるかしてください。ノートが段々分厚くなるにつれ、積み重ねが目に見えるので、達成感が増します。



こんなに読んだよ!

10冊ごとにシールを貼るか、スタンプを押してあげてください。子どもたちが喜ぶと思います。



裏表紙

表紙の絵は、かほく市立中央図書館のキャラクター「うんとくん」です。うんとたくさん本を読んでほしいという願いをこめて、市民の公募の中から選ばれた名前です。「うんとくん」は成長するとちょうちょになります。子どもたちも、本を読むことで大きく成長してくれることを願い、裏表紙にはちょうちょをデザインしました。



